

みんながせっかく四方八方から集まってきましたので、JNBやJCB、JSBに問わず、ミャンマにいれば1マレーシアです。さて、これは誰の美足か当たってみませんか。

女性の間で話題を起すのはそれほど難しいではないです。“とても素敵な服、普段もこのふうに着るのですか。”と聞けば、簡単に話のたねになります。このミャンマのお嬢様たちは小中学校の先生です。日本語は少し話せますが、やはり国際用語の英語を通じやすいようです。彼女たちはアスコジャのスタッフとして駐ミャンマ日本大使館主催の晩餐会に招待され、バイキング式で食べ物を取りながらお互いに話し始めました。初対面ですからなんとなくぎごちないですが、晩餐会が終わり、会場を後にしよう瞬間、おとなしかった彼女たちから、突然一緒に記念写真を撮りませんかと誘われて本当にびっくりしました。もちろんOKでした。写真を見れば分かりますように、私たちのひょうきんな雰囲気にもまれ、彼女たちの表情も柔らかくなりとても楽しそうでした。



大金持ちの巻



恵まれた家庭で生まれなくて、しかも大きくなってお金持ちの家へ嫁げなくて、それでもお金持ちの経験を味わいたくてどうしようもなかったら、ミャンマへ行きなさい。ミャンマなら、あなたが金持ちになる夢を現実にすることができます。ほら、彼女たちを見て下さい。大金を手に入れば、もう行儀なんか忘れてしまいました。

ミャンマでは、両替屋がありませんと旅立つ前から分かっていて、飛行機を降りましたから出迎えの運転手さんにそのまま中華街での旅行代理店へ直行とお願いしました。その代理店の華僑社長さんにミャンマ通貨を両替してもらいました。そこで、社長さんがいきなり分厚いミャンマ紙幣を机の上にポツンと置きました。こんなに大金で、金額を確認しようとしても、びっくりして手を出せなかったです。社長さんが私たちのおっちょこちょい様子を見飽きれて、店内の自動紙幣数え機を使い、あっという間に金額の確認してくれました。“あ、大金だ。。！”とそのとき生まれて初めて実感しました。

